

チームけせんの和 だより

2019
vol.25
12月号

発行 陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字東和野11番地 TEL 0192-22-8671 FAX 0192-22-8672

「チームけせんの和に寄せて」



黄川田薬局 代表取締役 黄川田 聡太

皆様にはいつも大変お世話になっております。

私は黄川田薬局の黄川田聡太と申します。今年で薬剤師歴は14年目になります。実家は震災前まで黄川田駅前薬局を営しておりました。

私の事をご存じでない方も多いと思いますので、簡単に私の生き立ちをご紹介しようと思います。私は、高田町出身で高田小→高田一中→高田高校とずっと高田で過ごしてきました。大学卒業後は大船渡の薬局に5年間勤めていましたが、在宅医療の勉強をしたい、また他の地域の実情を見てみたいという思いがあり、2010年に東京の薬局に転職しました。いずれは高田に帰って学んだことを活かし、在宅訪問等の地域医療に関わりたかったのですが、震災の際に実家、店舗、経営者である母親共々流されたため、薬局は廃業になり、高田に帰れない状態になってしまいました。その後、ずっと高田に帰りたいという思いがありましたが、なかなか機会に恵まれませんでした。昨年になり、やっと帰れる目処が立ち、県立高田病院前に店舗を再建することができました。

まだ自分の思うように店舗を運営できてはおりませんが、私自身は以前の薬局のように処方せんによる調剤だけでなく、一般用医薬品や医療用品等も扱い、「町の薬局」として地域の方々が気軽に関わられるような、何でも相談しやすいような薬局を作っていこうと考えています。そして、今まで地域の方にお世話になっていた分を少しずつでもいいのでお返ししていけたらいいなと思っています。

そのために、これから「チームけせんの和」の皆様との関係を築き、見識を広め、今よりもさらに地域のためになる仕事をしていきたいです。薬のことで気になることがありましたら、何でも構いませんので、是非気軽にご連絡ください。精一杯対応いたします！

まだまだ地域のことに関して分からないことがあり、ご迷惑をお掛けすることもあるかもしれませんが、一生懸命頑張っていこうと思っていますので、どうぞこれからもよろしくお願い致します。

令和元年 8月28日 (水)

令和元年度 第3回研修会 保健福祉総合センター 67名参加
 「地域における看取りとACPの課題と対策」(グループワーク)

講師 会長 岩井 直路 氏 (国保広田診療所 所長)

陸前高田市の今後の医療・介護需要予測と共に、家族、医療・介護施設、行政に大きな負担があまりかからずに、その人らしく最後まで生ききるためには、私達はそれぞれどうしたらいいかとの問題提起の講演の後に、グループワークで意見交換が行なわれました。

現 状	課 題	取り組めること
<p><家族・本人の知識不足> ・在宅で最期を過ごすことへの家族、本人の理解が不足している ・看取りには本人や家族の意向を確認しながら医療と連携が必要 ・看取りに対しての家族の受け止め方が様々で、亡くなることに対して受け入れられない家族もいるのが現状 ・家族（子ども）が遠方にいる方や独居、高齢家族の対応が難しい</p> <p><介護力不足> ・介護者も高齢であり、さらに子供が遠方にいることが多く介護力が弱い</p> <p><サービス不足、支える体制がない> ・在宅を支える介護サービスのマンパワー不足 ・医療チームが整っていない ・在宅看取りを希望されても夜間、休日・週末には医師がいない ・最期の決断に対し在宅の場合家族が責任を重くとりがち、自宅で最期を看取ると決めていても、いざとなると家族が不安になり救急車を呼ぶ ・家族の同意、理解がないと「ほっとつばき」の利用が円滑に進められない場合がある ・看取りの経験が少なく、判断に迷った時の相談先が十分に機能していない ・介護申請した時点で末期がんの方が最近多く、介護度が低いのでいるいるサービスが使えないまま亡くなる</p> <p><施設、病院での看取りの現状> ・施設で看取ってもらってよかった、本人の負担が少なかった ・施設での看取りは、夜勤体制から夜勤者の負担も大きく、十分ではない ・どこで看取りを行うのか、病院？施設？自宅？体制が整うまでに時間がかかる</p> <p><在宅での看取りの現状> ・訪問診療、訪問看護を利用しての在宅での看取りは、少しだが増えてきている ・在宅看取りしてもらえる医師が少なく体制が整っていないために、在宅での看取りが難しい ・良い（本人の尊厳を大切に）看取りに対する住民の理解が出来ていない</p>	<p><意識・知識> ・意思表示不可の方、認知症の方の看取りへの意思決定、家族の選択をどうするか ・地域柄、家族性でうまくいかないことがあり、家族の意向をまとめることが難しい ・患者、家族の終末期医療ケアの早期のイメージ構築、視野の拡大が少ない ・患者、家族、住民、医療従事者のACP及び看取りの勉強会が必要</p> <p><体制> ・ほっとつばきの対応が統一されていない ・高田病院で、ほっとつばき以外に夜間、土日受け入れない状況 ・「ほっとつばき」についての考え方が、病院と地域と差がある→周知が必要 ・高田病院と診療所の役割分担 ・退院時はサービス担当者会議で話し合うが、病院・施設ではサービス担当等看取りを進めていくにあたり、一同に集まり話し合える場がない</p> <p><不足> ・在宅看取りをしてくれる医師不足 ・施設の看取りについて、職員の知識不足、人員不足</p>	<p><医療者へ向けて教育> ・看取りのわかりやすいパンフレットをつくり、説明 ・看取り、ACPについて医療、介護従事者の理解を深める研修会の実施 ・エンディングノートの活用、死に向けてではなく、自分らしくどう生きたいかを知らせるため</p> <p><住民へ向けて教育> ・ACPについて一般の方が学べる研修と、学校教育へも取り入れる ・自宅で看取することを理解し安心してもらえるように、劇などを通して少しでも関心を持ってもらう ・地域においてより良い看取りに関する勉強会や講演会の啓発活動 ・ACPについて家族で話せる場が持てるような啓発活動を展開 ・家族、本人の終末期に対する意向の確認を元気な時から確認しておく（途中で変わることも可能であることも理解してもらう）</p> <p><体制> ・在宅看取りできるクリニック（施設）と病院とが連携 ・高田病院のほっとつばきを支える取組み ・他の地域から『高田に勉強に行きたい』と思わせるような地域、多職種連携を作る ・在宅で看取る時代なので、訪問診療、訪問看護を充実させる ・ほっとつばき、未来かなえ等、医療の中身を知り、お互いに理解しあうシステムが共通理解され生きたシステムにしていく</p>



令和元年9月25日(水)

令和元年度 第4回研修会 保健福祉総合センター 43名参加
「サービス付き高齢者住宅だからできるものがある。
看とり、呼吸器装着者の入居の実現」

～訪問看護と訪問介護の垣根のない連携～
講師 株式会社アース代表取締役 佐塚 みさ子氏



講師は、当会の岩井会長と千葉県松戸市において共に在宅医療（療養）を支えてきた方です。大事な家族を亡くした際に、自分が何もできなかったという喪失感に流されることなく40才で看護学校に入学し、在宅で必要と感じた医療処置を必要とする重度障がい者や児童発達支援等の数々の事業展開を行い、地域医療に貢献しているとのことでした。

特に人工呼吸器や喀痰吸引を必要とする方々、難病患者、末期がんの方等に対して、一般的には要支援者を対象とするサービス付き高齢者住宅を活用し支援している事には驚きました。それが実現できるのは、「気づきと思いやり」を理念とし、看護師と吸引等を対応できる介護士との対等な連携（専門用語は使わない、処置内容の統一化と共有、ユニフォームの同一化等）を実現し、個々が自分らしく輝ける暮らしを支えるために全力で取り組んでいることにあると思えました。

その中で、現在は国会議員となったALS（筋萎縮性側索硬化症）の船後靖彦氏との出会いや、担当訪問看護師として国会に付き添い代弁まで行なっている報告に驚きと共に、自然体で寄り添う佐塚さんの姿に感銘を覚えました。

今回は、市外も含めて5か所の訪問看護事業所からの参加があり、チームけせんの和としても、この地において、その人らしい輝きや暮らしを支援するために、それぞれの立ち位置で途切れない温かで力強い連携をしていくことの大切さを改めて感じました。

令和元年11月11日(月)

令和元年度 第5回研修会 39名参加
「盛岡市における在宅医療連携の取り組み」

講師 医療法人葵会 在宅医療連携拠点事業所チームもりおか
所長 板垣 園子氏



チームもりおかは、県で初めて開設された在宅医療介護連携拠点で、医療・介護支援の把握のために調査を行い、医療・介護・リハビリ・消防本部等と連絡協議会を定期的に行い、知識の共有と職域の理解を深め連携の強化を行っているとのことでした。特に在宅医療・介護におけるの最低限必要な医療情報の把握・共有化が重要で、最近では情報の少ない救急時や施設からの受診のために「救急・時間外受診連絡票」を作成し活用していきたいとのことでした。当地でも共有化の取り組みは行われていますが、みんなの願いである「住み慣れた場所で最後まで」のためにも有効と思われる内容でした。

令和元年12月2日(月)

令和元年度 第6回研修会 71名参加
「認知症における医療介護連携について」

講師 医療法人希望会 希望ヶ丘病院 医師 山田 英孝氏



認知症を取り巻く環境は、急速な高齢化と介護従事者減少により不安要素は大きいですが、その中でこそ認知症の病態を理解し、早期診断のためには家族や介護者からの情報の把握や早期受診が必要であることを話されました。

また、アルツハイマー型認知症の人への向精神薬使用の危険性を指摘し、さらにフレイルやサルコペニアの虚弱状態や、薬の種類を問わず多剤服用が転倒リスクを増し、認知症の前段階となりうる危険性も指摘されました。

そして、家族介護者の介護負担感の評価尺度の説明と共に、周囲の気づきが大切で、家族との連携やサポートの重要性を改めて認識することができました。



「チームけせんの和によせて」

あゆみ訪問看護ステーション陸前高田 管理者 武蔵 香織

こんにちは！私達の事業所は、平成22年9月高田町大町に開所し、東日本大震災の為、現在は米崎町佐野に移設し営業しています。

陸前高田市を中心に、大船渡市・住田町・宮城県気仙沼市唐桑町に訪問させて頂いております。主に車での移動なので、四季を肌で感じながら働いています。最近では綺麗な紅葉が印象的でした。

訪問看護は、自宅で療養される方が、安心して可能な限り自立した日常生活を営むことが出来るよう、療養生活を支援するサービスです。そのような中で私達は、住み慣れた家で安心して過ごせるように其々の家庭に寄り添った対応を心掛けています。

より良い訪問看護のサービスを提供出来るように、チームけせんの和の皆様のお力が必要です。これからも何卒宜しくお願い致します。

★劇団ばばば☆ 公演報告 ★

令和元年10月6日(日)
「塩を減らそう！」@和野会館

高田町12区乙の保健推進員さんから公演依頼があり、久しぶりに「塩を減らそう！」の公演を行ないました。

今回は県立高田病院から管理栄養士の参加があり、公演後の質疑応答にもわかりやすく対応することができました。また、第二部としてゆめちゃん役で参加の高田小学校の菅原由依ちゃんが、バイオリンやウクレレを演奏しながらの歌の披露もあり、とても盛り上がった公演となりました。



キャスト・スタッフ

出演	松太郎: 熊谷 晃喜 (松原指定居宅介護支援事業所) マツ子: 千葉三和子 (岩手高齢協気仙地域センターすずらん) としお: 佐々木康裕 (団長: GH 金山) 鮎 美: 熊谷 敬子 (東部デイサービスセンター) ゆめ: 菅原 由依 (高田小学校) 医師: 小林 里美 (高寿園) 看護師: 熊谷 悠花 (大船渡高校) 栄養士: 小山 尚子 (県立高田病院管理栄養士)
ナレーター	菅野佳代子 (地域包括ケアコーディネーター)
脚本	行本 清香 (地域包括ケアコーディネーター)
スタッフ	中野 信子 (岩手高齢協気仙地域センターすずらん) 中野 由香 (小規模多機能ホーム 厨) 佐藤 隆 (地域包括支援センター)

劇団ばばば☆ 新作DVD 「くすりは正しく使おう！」制作中!

劇団ばばば☆では、DVD第4段として、薬の正しい服薬方法や、かかりつけ薬局との連携等を内容とするDVDの撮影をしております。今回は特に薬剤師を中心として、皆様に薬の大切さを伝えたいと頑張っております。

どうぞ完成を楽しみにお待ちしております。



編集後記

やっとなじんできた令和も新しい年を迎える頃となりました。会員の皆様にはお忙しい中、さまざまな研修会に参加いただきありがとうございました。研修会が地域のつながりや温かなところを深める糧になればと思います。

そして、いつも会を盛り上げている岩井直路会長ですが、この度医師としての歩みや、「生と死」を優しく解きほぐした内容の「命は慈しみの光」を自費出版されました。岩井会長の多くの思いを更に知る事ができると思いますので、ご興味のあるかたはどうぞ愛読下さい。(菅野)